

1. 開会 16:30

2. 市長挨拶

運営協議会の開会にあたりましてご挨拶をさせていただきます。ここ何日か 30 度に迫るような暑さが続いており、体調管理も大変かと思えます。7 月に入り富良野圏域では各地域でイベントが展開され、まさに観光シーズンがトップシーズンに入っていこうかというところですよ。海外のお客様を含め大勢の皆さんがこの富良野圏域にお出でいただき、人が増えるとそれなりに問題も色々起きてくるのかと思っています。そういった中ではありますが、また今後とも委員の皆さんに置かれましては、地域包括支援センターに対するご助言、ご指導のほどよろしくお願ひしたいと思います。高齢者を取り巻く福祉については皆さんもご承知のとおりと思えますが、2025 年問題、団塊の世代が後期高齢者になるという大きな節目の時期を迎えます。今までこの街を創り、そして育てていただいた大勢の高齢者の方々を、どのようにサポートしていくか、支援していくかということが問われる時でもあります。責任が重くなる一方で、介護或いは支援する方々の人数が足りない。働いていただく方が少なくなってきたことも実際であり、数も充足させていかなければなりません。同時にいわゆる効率化を図りながら不足する部分を補っていくような対策も必要かと思っています。いずれにしても、令和という時代になりましたが、新しい時代に相応しい新しい取り組みが求められています。今後も地域包括支援センターの役割がますます高まって参りましたので、今日の議事を通じ、皆さんから様々なご意見をいただいたものを参考にさせていただき、次の展開に役立てていきたいと思えますので、是非ご忌憚のないご意見、そしてご協議をいただきますようよろしくお願ひ申し上げまして、開会にあたってのご挨拶に代えさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

3. 会長挨拶

小山内会長：

地域包括支援センターの役割に、富良野市民の高齢者に対しての健康保持、それから生活の安定、社会福祉、包括的に考えていかなければいけない組織。それに関して言えば、高齢者のこと限定ではなくて、いま北海道医療構想としても 2025 年を目処に病院にしても、在宅看護そういうのを色々考えていきたい。その中で、高齢者の福祉をどのように考えていくか。富良野地区にはこういうような機会ができていくが、できていない所もあるという声もありますし、これが将来的な富良野圏域の医療あるいは高齢者福祉の包括的なものとして、充実したものが創れていければいいなと考えています。また、ここだけの会議ではなくて、それから保健所、市などが考え、いろいろなところで協力して、やっていかななくてはいけないと思えますが、まずは一つずつ、いま地域包括支援センターとしてやるべきことを確実にやり、それを大きく増していけるようなものにできたらと期待しながら、今日の会議を進めていきたいと思えますので、よろしくお願ひいたします。

4. 議事

(1) 平成 30 年度富良野市地域包括支援センター事業報告について

- ① 事業報告
- ② 収支決算

⇒議案に基づき、事務局より説明 16:35-16:56

(質疑・応答)

草野委員：

認知症地域支援推進員の活動の中の困難事例を、地域ケア会議で検討されているが、認知症初期集中支援チームによる活動に繋がらなかった理由、経過を知りたい。

事務局：

認知症ケースは4～5件あり、まずは包括として訪問し関わった時に、受診や介護サービス、社協さんのサービスに繋がり、初期集中支援チームが動くには至らなかった。

困難事例の検討会というのは、1件独居の方で遠方の娘とも連絡がとれず、この方をどのように支援していこうかと、地域ケア会議の事例検討に出させていただいた。その後、チームとして動こうかという時に、今まで繋がらなかった娘と連絡がとれて、ケースが受診や介護認定を受けることになり、介護サービス等に繋がったため、チーム活用には至らなかった。

松田(英)委員：

4～5件そのようなケースがあったとのことだが、主に家族からの要請、近所からの要請、そういう人が初期集中支援チーム活用の対象になるのか。そして、動くのはまずは保健師が在宅訪問するのか。

事務局：

家族や近隣の方から相談があり、受診やサービスに繋がらない困難ケースはまずは包括支援センターで訪問、状況確認し、初期集中支援チームで活動するのかを判断している。

松田(英)委員：

初期集中支援チームで活動するまでには至らなかったということでしょうか。

事務局：

介護サービスに繋げるなど通常の支援で解決した。

松田(英)委員：

総合相談支援業務の関係機関連絡調整の中で、「病院・薬局」が110件とかなり増えているが、具体的にどのような内容なのか。

事務局：

背景としては、事業の中にもある在宅医療と介護の連携ということで、医療機関から包括支援センターに、高齢者の介護状況等を聞き取るために連絡が来ることが一つ。逆に包括から、入院している方を今後介護保険サービスに繋がるように調整することや、認定調査に行く日程調整など、病院・介護機関と包括の連絡連携を密にするよう意識的にしている結果である。今後も多い件数を維持していくと思う。

松田(英)委員：

昔「ほうれんそう」というのがあったが、それを利用しているのか。

事務局：

「ほうれんそう」は保健所が主体的に実施しているが、29年度から在宅医療介護連携事業が市町村におりてきて両輪でやりながら連携を維持している。

松田(英)委員：

居宅介護支援事業所利用者名簿について。病院ではソーシャルワーカーに聞けばケースがどのようなサービスを利用しているのか分かるのか。

事務局：

各医療機関に情報提供し、レセプトなどにデータ入力していただいている。開始して1年経つが患者様が利用している居宅介護支援事業所やサービス等が分かるようになっている。

松田(英)委員：

開業医、個人病院などはどうなっているのか。

事務局：

事務の方を通じて提供している。市内の全医療機関に情報提供している。

松田(英)委員：

入院・外来を出る時、こんなサービスを受けたらよいという指標になる。

事務局：

この事業を始める当初は医療機関から患者様が介護サービスを利用しているのか、ケアマネは誰かなど、どこに聞けばよいのか分からないという課題であり、この取り組みから始めた。

松田(英)委員：

ふまねっとについて。参加者が来なくなった時、その理由を考えておいた方がよい。認知症になった、病気が悪化した、入院した、要介護になったなど、理由が分かれば、例えば認知症初期集中支援チームにフィードバックしたりできると思うが、そういう把握はしているのか。

事務局：

包括支援センター職員が各教室に参加しているので、介護認定を受けている方は把握している。また、教室に参加しなくなった、身体状態が悪化した等は情報が入ってくるが、全ての参加者の状況は把握していないので、今後の検討事項になる。

松田(英)委員：

ふまねっとは仲間で参加しており、情報は仕入れると思うので、対応はできるかと思う。

松田(尚)委員：

地域ケア会議について。29年度から民生委員も介護については素人で何も分からないが、事例検討にも参加させていただいている。病院や施設を出た時に、“地域に帰す”という案が出た。そうなった時に誰がみるのかと気になったことがあった。地域に帰ってきた時に、民生委員はいろんな情報を持っており役に立てることがあるのではないかと参加していた。昨年は年11回中6回だったのが、今年は3回になったが、個別会議にその地域の民生委員がご指名を受けて参加させていただいている。個人情報もあるので民生委員の例会では報告してもらっていないが、関わることによってどのようになってきているのか伺いたい。

事務局：

今年度から地域ケア個別会議を開催している。助言者として地域の民生委員やりハ職の方に参加していただいている。個別会議は、連携を深める、地域課題の発見、社会資源の発掘などの目的がある。まだ開催して日も浅いので、目に見えて効果はまだ無いが、参加した民生委員からは「自分にできることがあったら協力します」「会議に出てケースの状況が分かったので今後様子を見に行くようにします」等ありがたいお言葉をいただいている。こうした積み重ねにより地域の方々が関わってくださり支援に繋がっていくのかなと感じている。

松田(尚)委員：

今後こうした形で続けていただけると、私達も仕事がやりやすくなるし、これまでは個人情報でシャットアウトされ、しようにもできないことがあった。医療のことは私達は分からないが住民の協力はますます必要になってくると思うので続けていただきたい。

草野委員：

認知症初期集中支援チームについて、検討したケースはあるがサービスに繋がったということですが、ケアパスが見直されて、連携がうまくいったという解釈でよいのか、ケアパスを実際活用してなのか、教えていただきたい。

事務局：

残念なことにケアパスの認知度は低い。昨年12月の地域ケア会議においてケアパスをどうしたら活用しやすくなるのかというテーマで検討していただいた。字が小さい、分かりにくい、フローチャート式にしてみてもいろいろな意見を出していただいたので、今年度どのように作成するか検討しているところ。

ケアパスを活用したから初期集中チームが動かなくてよかったと連携しているものではない。ケアパスは、地域ケア会議でケアマネから出された意見を参考にし、作り直す予定。

草野委員：

これに関する研修会とか周知をする予定、計画はあるのか。

事務局：

作りましたら、利用されるケアマネや市内事業所をはじめ皆さんに見ていただくよう周知していく。前回（29年度）は、広報折込みで全戸配布している。

松田(英)委員：

今月開催の「認知症をあきらめない」講演会でも周知したらよい。

草野委員：

認知症カフェなどでも周知したらよいと思う。

草野委員：

認知症初期集中支援チーム活動は具体的になかったとのことだが、事業費の決算は何をどう使ったのか。

事務局：

職員1名分の人件費がほとんど占めている。他は認知症に関する研修の出張旅費、また認知症サポート医研修を1名受講していただいた交付金が事業費の内訳となっている。

(2) 令和元年度富良野市地域包括支援センター事業計画について

① 事業計画

② 収支予算

⇒議案に基づき、事務局より説明 17:21-17:31

(質疑応答)

福永委員：

地域ケア個別会議について。事例検討の事業所の指定、事例を出してほしいという依頼はどれくらい前に分かるのか。うちの居宅介護支援事業所にはケアマネ3名いるが、1名参加したら他の2名は参加できないのか。

事務局：

概ね1か月前に居宅介護支援事業所に1事例出してほしいと依頼している。個別会議は5月から始めたばかりで、5月は包括1、居宅1の2事例、6月は居宅から2事例を検討した。

事例を出した居宅介護支援事業所のケアマネと利用サービス提供者、助言者としてHarpからリハ職、民生委員などが参加している。

福永委員：

関わっていない人も希望があれば参加することができるのか。それとも限定された人しか参加できないのか。

事務局：

個人情報もあるので今は関わっている人のみをご案内し開催している。他事業所ケアマネの希望による参加などは想定していないが、傍聴ということであれば可能なので検討していく。また、個別会議の検討結果（実施報告）を各事業所に返し共有していく。

福永委員：

その検討というのは、ケースの対処の仕方やプランニングがこれでよいかということを検討するものなのか、事業所ケアマネをサポートするものなのか。

事務局：

ケースを支援していく上で、ケアマネが困っていることなど課題を事前に出していただく。半年後にモニタリングし、支援した結果を検証する。

福永委員：

その個別会議には地域ネットワークの構築とあるが、そこに参加するのは地域の民生委員に限定しているのか。

松田(英)委員：

福永委員がおっしゃるとおりこれは会議じゃない。秘蔵会議だ。出された事例をこれはまずいですよ、これやりなさい、あれやりなさいと、そして6ヶ月後に市がこれならいいですよという会議になっている。これは本来の会議ではないと思う。他の人がオブザーバーとして出席することに意味がある。

福永委員：

民生委員が参加するのならもっとオープンでもよいと思うが。どうやって地域ネットワークを構築していくのか。ケアマネなど経験や考え方が違うと思うので、いろんな事例を参考に判断したらよいのかなど。傍聴させていただけるのならそういう形でやったらいいと思う。

事務局：

以前はケース検討会という形で、ケアマネや事業所に出席いただき、一人の方を検討するために皆で課題や対応を共有するためにやっていた。現在は国からの指針もあり、個別ケア会議の持ち方というのが個々の介護支援専門員をサポートすることが目的となっており、ケアマネが迷ったり困っていること、自分の視点だけ一方向からの考えになってしまうので、オブザーバーであるリハ職などにも参加いただいて、個別会議をしている。

福永委員：

個別というのはケアマネのことなのか。

事務局：

ケアマネへのサポート支援の会議。そして会議の共有ということで検討内容を事業所へフィードバックする。そして事業所内でもケアマネ同士で情報交換をしていただくなど、中での連携が必要になってくるのかと思う。こうゆう形で個別会議を行っている。

松田(尚)委員：

私の捉え方は、良いなと思ったところは、患者様をいろんな所からサポートすることに意味があると思った。一昨年から民生委員が会議に出させていただくようになったきっかけは、年に1~2回の事例検討会議がとてもよかった。民生委員として関われる意義のあるものだと感じた。素人の私達ですが、ケアマネさんが在宅に帰したらケースは良くなるかもしれないということに私達は役立てると思った。だから参加している意義は、ケアマネのためではなく、あくまで患者様が地域に帰って心豊かに暮らせるようにお手伝いできるという思いで参加させていただいている。

事務局：

地域ケア会議自体が分散化されており、ケアマネをサポートする会議もあれば、今までどおり関係機関に連絡する会議、ケアマネやサービス事業所、民生委員などで困難事例を検討する会議などがあり、これまで個別会議はなかなか取り組めていなかったが、今年度から参加メンバーや進め方なども試行錯誤しながら取り組んでいるところ。

福永委員：

目的は、一つはケアマネの質を上げる、もう一つは困っている方の支援方法を地域ぐるみでやるためにはどうしたらよいか考える、という二つの役割があると思う。それを一色単にすると分かりにくいのではという気がした。

ケアマネの経験によって判断が変わるし、サポートの仕方も変わってくる。そして実際関わってみて失敗し、あとで困るということをやっているが、結局レベルを上げるためのサポート支援をしていただくことと、もう一つはネットワーク、これが一番大事になってくる。

草野委員：

私は作業療法士会 **Harp** で参加しているが、自分の捉えは、個別会議は自立支援型のプランにしていけるために、専門職的、多角的な視点として足りていない部分を助言し、ケアプランに生かしていただくような検討会議と思っている。気になっていたのが、会議がクローズになっていて、本当はオープンでなくてはならないのかなど。始める当初聞いていたのは、以前までの事例検討は大勢でやると意見の收拾がつかなくなるので軌道に乗るまではということで、自分も地域ケア会議の研修で受けたところでは、1時間に3~4事例をポンポンとやって、いかに介護度を進行させないか、自立に変えていくために見えていないプランニングを探る。理想としては、実際に具体的に助言アドバイスをやりつつ、関連事業所、他事業所がそれを傍聴できて、それぞれが抱えているケースのプランニングに生きていく。それが全体のケアプランの質を上げつつ、中でも上手くいっていない事例やもう少し自立支援に広げるためにという事例が繰り返されるとプラスの循環に変わっていくと思うので、いずれオープンになっていくと良いと期待している。個別会議だけだと地域ネットワークは難しいし、地域課題検討として

の地域ケア会議としていくためにも、足りない資源は何かということを探るために個別の事案を追及した上で、地域課題に繋がると思う。個別の検討も大事だが、共有できて、さらに地域課題検討に繋がっていきけるような仕組み作りが必要だと感じている。

小山内会長：

大事なことだが、個人情報がとてもうるさくなっていて、それをクリアしておかないと後で問題になる。個別会議をオープンにするには個人情報をしっかり守らないといけない。

松田(英)委員：

要介護状態や介護サービスを受けている等については共有してもよいことになっており、個人情報保護を破ったことにはならないので勘違いしないでほしい。

松田(尚)委員：

支え合いマップ事業を推進しており、富良野は道内でも注目されている。昨年からは包括的個人情報の共有ということで個人情報が緩和された。緊急を要する時や認知症に関してはオープンにしないと救えないから共有することが大事。町内でも1件事例あったが、公開したことで協力体制ができ、悪いことに利用されることはなかった。恥ずかしいことではなく、家族一人で抱えきれない、地域の皆で見守らなければいけないという方向になった。個別会議もそうだが、その方のためにプラスに働く情報しかないと思う。包括的個人情報の共有というのは、行政、病院、町内会、警察、消防、民生児童委員など皆で共有できるというもの。もちろんその方に承諾を得るのは必要かもしれないが、それを判断できない場合は共有してもよいと医療に関しては緩くなってきている。

松田(英)委員：

個人情報の扱いは正当な理由があれば特に問題はない。事務局にはこのような形で進めていただいて、来年でも再来年でも少しでもオープンにできるような方向を画策していただきたい。

事務局：

先ほど言葉足らずな部分があったが、支援している人を支援して、最終的には利用されている地域の方が生活しやすいとか、介護予防につながるような会議になるようにしていきたい。今年から始めたところなので、進めていく中でやり方や参加者の範囲を検討していきたいと考えている。

草野委員：

他市町村でも個別会議は関係職種の方が傍聴するという参加形式でやっているところが結構あるので、そういった背景なども情報収集しながらやっていただきたい。

(3) 地域密着型サービスについて

⇒議案に基づき、事務局より説明 17:57-18:06

(質疑応答)

草野委員：

事故報告で、転倒事故が多いが転倒に対する対策は、事業所ごとの努力なのか、事業所によっては生活機能向上連携加算を活用し生活機能評価をして、能力に合った生活活動の助言をするなどの取り組みをしているところもあるが、転倒に対する対策で推奨していること、検討していることはあるのか。

事務局：

事業所からの報告書には検討事項や今後どうしていくかということが記入されているが、それ以外に、グループホームや介護事業所から話があった時に Harp さんをお願いして出向いで指導していただいていることもある。各事業所にもこういう事業があるので積極的に活用していただきたいと周知している。特にグループホームは夜間に自室での転倒が多く、防ぐことが難しいが、生活機能をどのように向上していくか、或いは職員がどのように対処すればよいのかなど、市から助言できればと思っているので、Harp さんにはお世話になりますがよろしく願いいたします。

草野委員：

昨年はあまり無かったので、どんどん依頼してください。

事務局：

ある事業所からはどのようにお願いしていいのかわからないという話があったので、市を通していただければ担当者に連絡して調整すると伝えている。

草野委員：

能力評価、環境評価を助言する専門家でもあるので活用していただきたい。

事務局：

転倒が 19 件あるので、これをいかに減らしていくかということで活用させていきたい。

小山内会長：

事故報告の 26 件は多いのか、少ないのか。

事務局：

前年度から比べると減ってはいるが、心配なのは落葉を含む誤薬で年々増えている。これをどのように対処していくか考えているところである。

小山内会長：

他に全体を通して確認したいことはないか。今日は有意義で、よいディスカッションができ

たと思う。今後の地域ケア推進会議も同じメンバーなので、またよろしく願いいたします。
これで議事を終了いたします。

5. その他 18:11-18:15

事務局：

地域ケア推進会議

1回目 9月開催 H30年度の実績検証

2回目 1~2月開催 8期（令和2年度～）に向けた高齢者ニーズ調査の内容検討

3回目 3月開催

6. 閉会 18:15